

# 地域社会の一員として、積極的に社会参画する児童の育成

豊明市立三崎小学校

## 1 実践のねらい

### (1) 児童に求められる社会参画の大切さ

今を生きている児童は、平成の時代に生まれ、平成の社会事象の中で家族と暮らし、学校生活を送っている。この平成の時代は、「ベルリンの壁崩壊」や「テロとの闘い」、「東日本大震災等の大きな災害」など社会情勢が大きく変革したり、社会生活に不安を感じたりする出来事に象徴される時代であった。このような時代であるからこそ、社会事象から目をそらすことなく、未来の社会形成に自ら関わろうとする社会参画の意識が必要であると考えている。そこで、次期学習指導要領に謳（うた）われている「主体的・対話的で深い学び」を手段とし、よりよい社会の実現に積極的に関わろうとする児童の育成を目指した。

### (2) 地域とともにある学校を目指して

地域の方々が学校教育に関わることで、学校運営や児童の様子を理解することができるとともに、児童にとっては地域の方々との交流の機会を増やすことにより、思考を深めさせることが期待できると考えている。地域の方々との交流を組織的・計画的に取り入れることにより、教育の質の向上と地域に対する児童の認識が高まることを目指した。

## 2 実践の内容

### (1) 社会参画意識の育成

未来の豊明市や日本のあるべき姿を考え行動することができる児童の育成を目指して、「平和教育」と「まちづくり提言」の二つの視点で取り組んだ。

#### ア 平和教育の取組

豊明市は、昭和60年に「平和都市宣言」を決議しているが、児童はこの宣言についてほとんど知らないのが現状であった。そこで、校長が全校児童に対して講話をしたり、戦争体験や被爆体験の講話を聴いたりする機会を設定し、社会事象に目を向け、児童の社会参画への意識を高めさせることをねらいとした。

#### 朝会での校長講話（全校児童対象）

- 6月25日（月）「沖縄慰霊の日」に関する講話
  - 7月2日（月）「豊明市平和都市宣言」に関する講話
  - 12月3日（月）「太平洋戦争」に関する講話
- スクリーンに映像を映したり、音楽（戦争を知らない子供たち）を聴かせたりすることで、児童は関心をもって話を聴いていた。



校長講話の様子

#### 戦争体験講話（6年生児童対象）

6年生では、社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」を11月に学習する。その学習に絡めて、戦争を体験された方を招き、直接児童に戦争の悲惨さを語っていただくとともに、児童と意見交換する場を設けた。

- 12月14日（金）愛知県平和学習支援事業による戦争体験講話（ピースあいち語り手の会会員）
- 12月18日（火）被爆体験者による被爆体験講話（広島平和記念資料館推薦の講師）

また、戦争体験講話を聞くに当たり、12月3日（月）～7日（金）の1週間、広島平和記念資料館より「市民が描いた原爆の絵」1セット（複製30枚）を借用して校内に展示し、全校児童が鑑賞できる場とした。この期間を保護者会の時期と重ねることにより、来校した保護者にも見ていただく機会とした。

また、12月18日（火）の被爆体験講話には、地域の方々も参加し、児童と意見を交換する場ともなった。



被爆体験を語る植田さん

#### 平和教育授業実践（6年生児童対象）

6月からの平和教育取組のまとめとして、1月15日（火）に6年生が合同で「いつまでも平和が続くためにできることを考えよう！」をテーマに授業を行った。この授業にも地域の方々や教育委員会、図書館長など14名に参加していただき、児童と意見交換するグループ討議の場面を設定した。この授業を受けて、児童は以下のプロジェクトチームを立ち上げた。

- 三崎小学校平和宣言プロジェクト
- 平和ポスター作成プロジェクト
- 「市民が描いた原爆の絵」展示プロジェクト
- ユニセフ募金プロジェクト

それぞれのチームは、朝会で全校児童を前に平和宣言を発表したり、校内で募金の依頼をしたりする活動に発展した。平和ポスターを作成したチームの活動は、地域や市の図書館に展示する約束ができ、5年生へ引き継がれる広がりを見せている。



授業の様子



朝会で発表の様子

## イ まちづくり提言の取組

6月と8月の2回にわたり行われた「学校を中心としたまちづくりワークショップ」に希望者16名が参加し、校区の好きなところや嫌いなところを立体模型に印をつけて見える化したり、未来の学校を制作したりする活動を行った。

この取組に関心をもった区長から「是非、その模型や児童の作品を見たい。」という意見が出たため、市役所企画政策課に展示の計画を提案し、それが実現する運びとなった。市役所においておひろめ会が開催され、参加した児童が市長や市役所職員、多くの地域住民を前に、自分の思いを堂々と語る姿が印象的であった。また、6年生社会科「わたしたちの生活と政治」を1月に学習した。その学習に絡めて、1月29日（火）に6年生が合同で「未来のまちづくりについて市長に提言しよう」をテーマに授業を行い、「豊明市の好きなところ」「豊明市にお願いしたいこと」についてグループで話し合った。

この授業は、市長に直接提言することを目的としていたため、すぐにプロジェクトチームが立ち上がり、みんなの意見をまとめて、2月13日（水）に市長に提言案を読み上げて、市長から回答を頂くことが実現した。



提言書を手渡す様子

## (2) 地域愛の育成と地域への情報発信

### ア 地域行事への積極的な参加

学区の行政区が企画する行事に対して、学校も協力して全校児童に積極的な参加を呼びかけた。運動会への参加や文化祭への図工作品の出品、防災訓練でのボランティアとしての参加など、多くの児童が参加する姿が見られた。

### イ 「三崎小学校かわら版」の発行

「社会に開かれた教育課程推進事業」の取組を教頭が地域の会合で報告するとともに、取組を「三崎小学校かわら版」として、区長を通して全戸配付した。このかわら版に対して、地域住民から意見を頂くこともあり、関心の高さがうかがえた。

## 3 実践の成果や課題

「社会参画」と「地域とともにある学校」をキーワードに取り組んだことにより、地域住民の方々から機会があれば再び参加したいという声を頂いている。また、6年生の児童においては、これらの活動を通して、自ら進んで活動しようとする意欲の高まりが見られるようになってきた。そして、6年生を中心とした取組が全校に波及し、全校児童による取組へと発展していった。